

発行：東京大学 先端科学技術研究センター
教科書デジタルデータ管理機関 AEMC



東大先端研
Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

文科省にて拡大教科書フォーラム開催！

去る7月11日（火）、拡大教科書製作団体の皆様に集まりいただき、文部科学省講堂にて「拡大教科書フォーラム」を実施しました。（参加計20団体、会場参加16団体35名、オンライン参加5団体*11名。*1団体は会場、オンライン両方）今号は、フォーラムの内容を振り返ります。



会場の様子

日時：2023年7月11日（火）13:00-17:00
場所：文部科学省（東京都千代田区霞が関）3階 第1講堂
プログラム：

- ・ご挨拶 AEMCディレクター 東京大学教授 近藤武夫
- ・拡大教科書ボランティア活動のこれまで
全国拡大教材製作協議会 代表世話人 越島陸雄氏
- ・ご参加いただいた拡大教科書製作団体ご紹介
- ・文部科学省より 文部科学省 教科書課 嘉村玲子氏
- ・音声教材・学習者用デジタル教科書の紹介
- ・令和6年度小学校書目大改訂に向けて AEMC 長田江里
- ・グループディスカッション
- ・各グループからの報告
- ・質疑応答

■「拡大教科書ボランティア活動のこれまで」

全国拡大教材製作協議会 代表世話人 越島陸雄氏

私が代表の四街道拡大写本の会は1980(昭和55)年発足、1993(平成5)年から教科書製作を始めました。次第に必要性が認められ、1997(平成9)年に70団体くらいで全国拡大教材製作協議会(拡大協)ができました。

2004(平成16)年には拡大教科書が無償給与となって依頼が増えました。2005(平成17)年、国立特殊教育総合研究所(特総研)が拡大教科書製作マニュアルを作成、これが今の拡大教科書の基本規格になっています。

出版社の標準拡大教科書は文字サイズが限られているのでそれより大きい文字のものはいままで通りボランティアが作ることになる。

PDF提供により画質の良い教科書を作ることが出来るようになりました。10年ほど前は製作依頼が増えました。が標準拡大教科書の採択が増え団体への依頼が少なくなってきました。そんな中、デジタル教科書が始まり、ボランティア製作の拡大教科書は減って行くでしょう。今は、そういう時代なのでしょう。

我々の最大の問題は、ボランティアの減少です。四街道は、現在23名、平均年齢75歳。80歳以上が7人。閉めるにも準備が必要で、文科省さんに問いかけをしているところです。デジタル教科書でさらに拡大教科書は減ると思いますが、減っても誰かが残って製作しなくちゃならない宿命を感じています。



全国拡大教材製作協議会
越島陸雄氏

これまでの歴史をわかりやすくご説明いただきました。



■参加団体ご紹介 AEMC 尾崎柊子
20団体をスクリーンで紹介しました。

■文部科学省から

教科書課 教科用特定図書普及促進係 嘉村玲子氏

教科書バリアフリー法では、発行者の標準拡大教科書で対応できない大きな文字サイズ、色の変更、総ルビといった教科書が必要なお子さんのために、団体の皆様に製作をお願いしますが、ご尽力に感謝申し上げます。

令和4年度、団体の皆様による拡大教科書は約60人に提供しています。

来年度活動予定の団体数は現時点で拡大33、点字10。製作依頼が集中する団体と少ない団体があります。拡大教科書については、全国拡大教材製作協議会と神奈川県拡大写本連絡協議会が製作依頼の調整をしてくださっています。



文部科学省 嘉村氏ご説明

拡大教科書の製作・給与に関する手続きについては、まず前年7月に文科省から都道府県教委へ拡大教科書の需要数調査を行い、学校や教委から各団体に教科書の依頼が始まります。各団体では、依頼に応じて教科書の仕様等をご相談の上、拡大教科書を製作いただいています。文科省では教委の報告に基づき各団体と教科書の購入契約を結び、拡大教科書の納入分の費用をお支払いしています。

拡大教科書に関する取組として、文科省では毎年教育委員会への事務連絡に拡大教科書の概要資料を入れて周知を行っています。新しい取組として、需要数調査時に提供する団体の一覧において、団体ごとに製作可能な教科書の種類（総ルビ、色反転など）を示すことにしました。情報に変更があれば文科省へ連絡をお願いします。

データの提供時期については、発行者は教科書の編集スケジュール上、データの提供時期を早めることが難しい状況です。さらにAEMCでは年々作業の効率化を図っています。各者ご尽力いただいておりますが、データの提供に時間がかかる点をご理解いただけたらと思います。引き続き皆様と意見交換のうえ、改善できるところは改善し迅速にお届けできるようにしていきたいと考えています。



■音声教材、PDF版拡大図書、デジタル教科書 展示・紹介 AEMC 浅見紫織

音声教材、PDF版拡大図書計7種類展示のほか、デジタル教科書の機能等について紹介しました。

■来年度の小学校教科書提供について

AEMC プロジェクトマネージャー 長田江里

小学教科書は、令和6年度は大改訂のため、音声教材製作団体からの要望でEPUBデータ(画像と見出し情報が入ったものにルビを付けたデータ)の提供を調整していますが、これは拡大教科書の団体の皆さんにも役立つと考えています。

提供時期として、PDF提供後1週間で自動抽出した画像の提供、その後1か月でテキストデータ提供、さらに1か月で、EPUBデータを提供したいと考えています。EPUBデータはWordに変換が可能、さらに一太郎データに変換できるので、皆様の製作活動に少しでも貢献できるようにであれば検討を進めたいと思っています。

AEMCにとって最初の改訂年度、令和2年度は教科書にあるデータはすべて拾ったため時間を要し、誤りも増えました。そこで令和6年度は製作側で作れるものはAEMCでは省略、早期提供につなげたいと考えています。



会場展示：音声教材

会場には音声教材製作団体の協力で、各種音声教材の展示を行いました。参加者の皆さんは、休憩中、興味津々で画面に注目されていました。



会場展示：拡大教科書

10団体の方が拡大教科書のサンプルを持参くださいました。他団体の製作物をあまり目することがない皆さんには関心が高く、製作団体への質問が飛び交うなど貴重な機会となりました。



■グループディスカッション

ほとんどのグループが、もっと話したかったといわれるほど、熱心な議論が続けられました。



Aグループ



Cグループ



Eグループ



Bグループ



Dグループ



Fグループ

■グループディスカッション報告

最後に、各グループでのディスカッションの内容を各グループの代表に報告していただきました。多くのグループから、次のような意見がありました。

・教育委員会について

教育委員会の対応が問題とする意見が多くのグループからあがりました。弱視の児童の打診をしてもいないという回答しかなく、拡大教科書への理解が不十分なのではないかというもの。入学前時点で健診で把握できるのだから、そこで対応できるよう学校とのルートが欲しいという意見もありました。

・本人や保護者の方とのコミュニケーションについて
個人情報保護法を理由に、本人や保護者と直接の連絡がしにくくなった団体も多いとのこと。かつては、お礼の写真や手紙をもらったこともありましたが、今は直接の連絡をとることが難しく、できれば、製作した教科書の感想を聞きながら、その子に最適な仕様となるように改善していきたいといった声が聞かれました。

・製作数の偏りとボランティアの高齢化について
製作数の偏りによる作業量の減少やボランティアの高齢化は、各団体にとって切実な悩みとなっています。今後については、偏りの調整に期待したい、自然消滅せざるを得ない、一般書の製作で高齢者や子供用図書にシフトしたいなど様々な意見があり、どの団体も運営を模索している様子が見えられました。

また、次のような意見もいただきました。

- ・依頼が1月や2月だと断らざるを得ないこともある。文科省でまとめて早くに依頼をもらえないか。
- ・特殊なフォントについて、出版社は学校の先生に提供しているので、私たちにも提供してほしい。
- ・AEMCには、一日も早くPDFを送ってほしい。

■質疑応答

質疑応答の内容は以下の通りです。A)AEMC)はAEMCからの回答。A)文科省)は文科省からの回答。Q)ルビやEPUBはいらないという団体と、必要という団体があります。

A)AEMC) 申請時に要望は選べるようにするので、それで申請していただけますか。

Q)フォントは教科書会社が学校の先生に提供しているような形で、自分たちにもいただけませんか。

A)AEMC) 要望があることは承りました。ご期待に沿える回答ができるかはわかりませんが確認します。

※確認したところ、フォントは教師用指導書による学校向け有償提供に限られるとのこと。

Q)今日、表示していただいた文科省さんのデータは開示していただけますか。

A)文科省) 一部情報を除いたものでよければ、検討します。

Q)テキストデータについて誤字脱字が多い。もう少し校正を確実にやっていただけませんか。

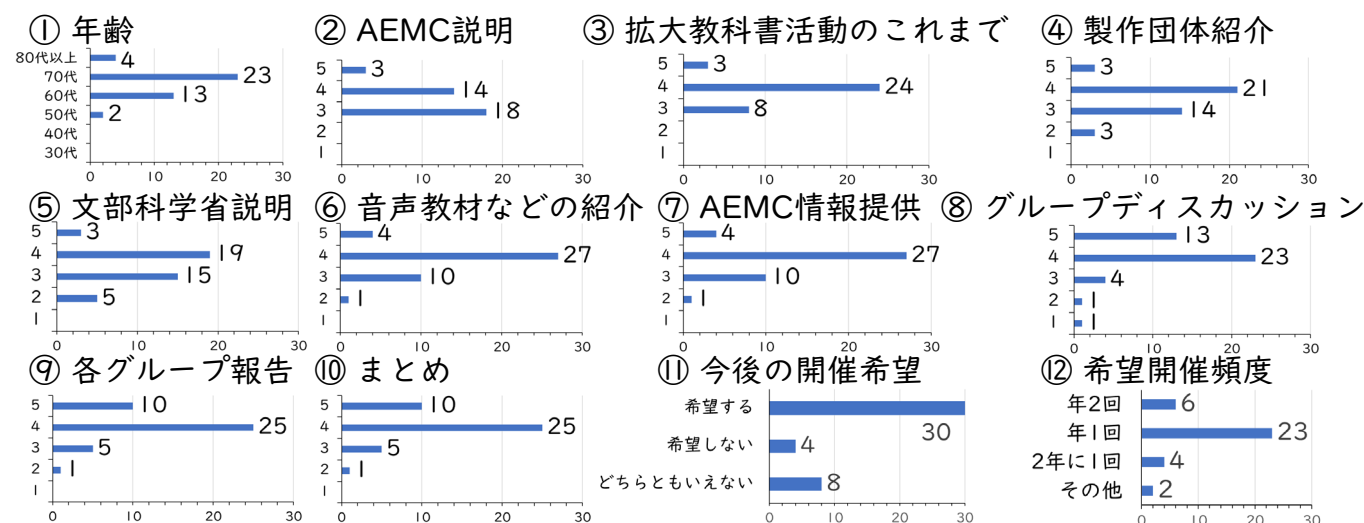
A)AEMC) 小学校の教科書は、新しい抽出方法でやっていくので、改善されると思っています。

Q)地図に載っている地名のようなものはどうなるのでしょうか。

A)AEMC) 従来、社会科教科書の地図上の地名を全部拾っていましたが、作業も増え送付も遅れるので省きたい。ほかの製作団体にも聞いて検討しますが、地図の地名は外したいと考えています。

■終了後アンケート

横軸が人数。縦軸の数字は、5…非常に良かった、4…良かった、3…普通、2…あまり良くなかった、1…良くなかった



初めての試みでしたが、ディスカッションもお役に立てたようです。皆様のご協力に感謝いたします。

編集後記：たくさんの方のお話を伺い、勉強になりました。またオンラインの方、音声聞き取りにくい点があったこととお詫びします。

【参考】2004年2月のJIS漢字コード表改正 (JIS X0213) により一部字形が変更 (薩→薩、葛→葛、噌→噌など。旧字形は異体字) されましたが、環境により表示できないことがあります。なお、旧字形の表示はWindowsではIMEの設定変更 (全般→文字セット選択を「すべて」) でできます。